言語研究センター共同研究

# 外国語学習・教育における レアリアの内容と位置づけに関する研究

堤　　正　典

外国語教育におけるレアリアの研究を行っている。レアリアは当該の言語文化に関する知識のことで、その言語運用を支えるものである。このような知識がないと実際の使用に支障が生じ、ついては言語学習にも支障が生じる。外国語に接していると、文面上の意味は分かることは分かっても、文化的背景等を理解していないと実際の意味するところが分からないことは多々あり、軽んじることのできない問題である。

実際の教育の場面で、どのような内容をどのような段階で導入するかは、他の教育内容・教育課題と同様に検討する必要がある。しかし、残念ながら、現在の研究状況では、レアリアの具体的教育内容については十分に把握ができていない。

ある表現をしようとするとき、いくつかの単語を組み合わせて文を作ったとしても、必ずしもその場面にふさわしいものができるという保証はない。例えば、空腹で食事をしたいことを伝えたいときに、ロシア語でя хочу（私は～したい）とесть（食べる）を組み合わせたとすると、実際には小さな子供が言うような文になってしまう。それぞれの単語は、学習の比較的初期の段階で出てくる基本的な語であるが、この組み合わせで作られる分は場面にふさわしいものではない。「食べる」を意味する別の動詞кушатьであればよいとされる。しかし、こちらの動詞は初期段階で導入されていないことが多い。

このような例を、多数集めて、学習者に提示できるようにすることも、レアリアの一環といえよう。これも現状の一つの課題である。現段階では、どのような問題が存在しているかを洗い出している状況であり。具体的な教育内容を検討するのは次の段階の作業となるだろう。

他の言語教育、特にフランス語教育での現在の状況を知ることも、大いに参考になり、有益に機能している。

なお、今年度は現在ロシアで教鞭をとる小林潔氏が、インターネット会議システムを用いて講演をしてくれた。ロシア語教育に関するレアリアについて、現地での最新の情報等を盛り込みながらの講演であり、非常に興味深く拝聴することができた。